

講義コード	3A017021
講義名	スポーツリハビリテーション実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2621
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員

増田研一
吉田隆紀
山口由美子
中尾哲也
寺岡祐助
内田靖之

講義の目的

リハビリテーション関連科目の講義で学んで得た知識を対象者に指導／実践を行えるようになること。

到達目標

傷害発生時点から競技復帰までのアスレチックリハビリテーションのプログラミングやその実施を実践応用する。

授業計画表

授業計画

1. アスレチックリハビリテーションの考え方

アスレチックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識及び技術の習得を狙いとする。

2. 運動療法の基礎知識

アスレチックトレーナーが指導するアスレチックリハビリテーションの中で最も主要となるエクササイズの基礎理論と方法について学び、対象者に妥当なエクササイズ指導ができるようにすることを目的とする。

3. 物理療法の基礎知識

アスレチックリハビリテーションの補助的な手法となる物理療法の基礎理論を学び、使用に関する理解を深め、対象者に正しいアドバイスができるようになることを狙いとする。

4. 補装具の使用に関する基礎知識

患部の負荷軽減や外傷予防を目的として、使用機会が多いテーピング、装具、足底挿板等の補装具について学び、適切な指導と使用が出来るようになることを狙いとする。

5. 外傷毎のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践
「アスリートの測定と評価」で学んだ知識を生かし、対象者の外傷毎にリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践が正しくできるようになることを目的とする。

6. 競技種目特性に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング

アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性」について学び、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導ができるようになることを目的とする。

これらの項目を踏まえ、学内・学外において、競技スポーツからレクリエーションスポーツまで幅広いニーズ層に対して、正しいアスレティックリハビリテーションの指導・実践ができるようになることを目的とする。

成績の評価

実習（自己評価など）、筆記試験、実技試験などを総合して評価する。

自己学習

これまでに学習してきた全てをもって実習に臨んでください。

履修上の注意

原則的に遅刻／欠席は認められない。学外での実習を含みます。

テキスト

日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ、公認アスレティックトレーナー専門テキスト1～9

参考文献

適宜、指示する。

研究室

吉田隆紀（診療研究棟3階305研究室）
山口由美子（診療研究棟4階415研究室）
中尾哲也（診療研究棟4階412研究室）
寺岡祐助（診療研究棟3階教員室）
内田靖之（診療研究棟3階311研究室）

講義コード	3A022021
講義名	スポーツ現場実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2620
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員

増田 研一
吉田 隆紀
山口 由美子
中尾 哲也
寺岡祐助
内田 靖之

講義の目的

主に『予防とコンディショニング』で学んだ知識を現場に於いて実践応用すること。

到達目標

競技活動に於いて対象者が高いパフォーマンスを発揮できるように様々なコンディショニングの方法を実践できるようにする。

授業計画表

授業計画

1. コンディショニングの把握と管理
コンディショニングの概念を理解し、スポーツ実践者が目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するための要因、具体的な方法の実際を競技特性を踏まえて学ぶ。そこに傷害予防のためのアプローチ、そのための環境作りを学ぶ。
2. コンディショニングの方法
多様なスポーツ現場でその時々求められる目的に合ったコンディショニングにおける実際の方法を学び、現場に対応できる能力を身につけることを目的とする。
3. コンディショニングの実際
実習、実技を通して得たコンディショニング方法を、講義で得た知識と共に更に深く理解し、体得することにより予防的アプローチとして実践指導を行っていく。
4. 競技種目特性とコンディショニング
様々な競技のスポーツ特性を見極め理解し、その競技特性にあったコンディショニングプログラムの立案・実践できる能力を獲得することを狙いとする。
5. 傷害予防に必要な環境整備

コンディショニングの要素、評価を通して傷害予防の方策を見だし、スポーツ現場の環境整備を推進できるようになることを目的とする。

以上の目的や狙いを基に、主にスポーツ現場を通じて実践・指導能力の向上を行っていく。

成績の評価

実習（自己評価など）と筆記試験／実技試験などを総合的に評価する。

自己学習

これまでに学習してきた全てをもって実習に臨んでください。

履修上の注意

原則的に遅刻／欠席は認められない。学外での実習を含みます。

テキスト

日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ、公認アスレティックトレーナー専門テキスト1～9

参考文献

適宜、指示する。

研究室

増田 研一

吉田 隆紀（診療研究棟3階305研究室）

山口 由美子（診療研究棟4階415研究室）

中尾 哲也（診療研究棟4階412研究室）

寺岡祐助（診療研究棟3階教員室）

内田 靖之（診療研究棟3階311研究室）

講義コード	3A031011
講義名	フィットネス実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	5時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2717
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

講義の目的

トレーニングには全身持久力系、筋力・筋持久力系、柔軟性系、調整力系などがある。本講座ではこれらの能力を向上させる様々な運動（ウォーキング、ジョギング、ストレッチング、補強運動など）を安全にまた効果的に行う上で必要な知識と技術を学ぶ。また、トレーニング前後に必要な体調チェックやウォーミングアップ、クーリングダウンについても実践する。

到達目標

健康増進の運動を理論だけでなく実践できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論と実際
2. ウォーキングの実践①
3. ウォーキングの実践②
4. ジョギングの実践①
5. ジョギングの実践②
6. 全身持久力のトレーニング（ウォーミングアップとクーリングダウンの理論と実践を含む）
7. 全身持久力のトレーニング
8. 筋力・筋持久力のトレーニング
9. 筋力・筋持久力のトレーニング
10. 柔軟性系のトレーニング
11. 調整力系のトレーニング
12. 子供のフィットネスプログラム
13. 壮年（中年）のフィットネスプログラム
14. 高齢者のフィットネスプログラム
15. 女性のフィットネスプログラム 障害者のフィットネスプログラム

成績の評価

平常点40% 学習到達度40% 取り組み姿勢20%

自己学習

日頃の実践を心がける

履修上の注意

本科目は健康運動実践指導者の認定科目となっている。
実技は室内で行う場合と屋外で行う場合があるので注意すること。
服装は、伸縮性・通気性・吸水性の高い運動着とする。
靴は室内用と屋外用の運動用シューズを用意すること。
机が無くても筆記ができる準備をすること。
実習科目であるために体調管理に十分留意すること。

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受検する学生は、当該科目を履修しなければなりません。当該科目は、その養成講座、「10、エアロビック運動の理論と実際（実技）」の内容も含まれます。

テキスト

健康運動実践指導者養成用テキスト

オフィスアワー

木曜日の昼休み

研究室

313研究室

授業用E-mail

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	3A039011
講義名	リハビリテーション各論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2107
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

担当教員

中尾 哲也

講義の目的

各疾患の病態の理解と、その疾患のリハビリテーションの目的および方法について知る。

到達目標

教科書に書かれてある項目、内容について理解する。

授業計画表

授業計画

1. 脳卒中のリハビリテーション (1)
2. 脳卒中のリハビリテーション (2)
3. 脊髄損傷のリハビリテーション (1)
4. 脊髄損傷のリハビリテーション (2)
5. 切断のリハビリテーション
6. 小児のリハビリテーション
7. 骨関節疾患のリハビリテーション (1)
8. 骨関節疾患のリハビリテーション (2)
9. 骨関節疾患のリハビリテーション (3)
10. パーキンソン病のリハビリテーション
11. 呼吸器疾患のリハビリテーション
12. 心疾患のリハビリテーション
13. 高齢者のリハビリテーション
14. 運動の仕組み (1)
15. 運動の仕組み (2)

成績の評価

授業内レポート、および学期末試験などにより評価します。

自己学習

解剖学、生理学、臨床医学の知識が不可欠ですのでしっかりと学習しておいてください。

履修上の注意

提出するレポート用紙（ルーズリーフ可）を個人で準備する。

テキスト

「リハビリテーション医学」 （医歯薬出版）

参考文献

「臨床医学各論」 （医歯薬出版）

オフィスアワー

月～木の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階 (412)

授業用E-mail

nakao@kansai.ac.jp

講義コード	3A048011
講義名	医学推計学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2702
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山本 博司	指定なし

担当教員

山本 博司

講義の目的

医学・医療の世界では医学推計学は必須の学問になっている。

自ら研究するためだけではなく、医学論文を読み、理解し、日常の臨床に活かしていくために必要なのである。

ここでは、単なる医学推計学に終わらず、その周辺の学問、疫学、EBM（根拠に基づいた医学）などを理解し、科学的思考ができるようにする。

到達目標

医学関連論文を正しく理解し、その内容を評価できるようになる。

また、自分の臨床治療の基礎知識として活用できる。

授業計画表

授業計画

1. 医学の基礎（医学とは）
2. 医学の方法（医学が用いる手法）
3. 医学推計学の基礎（すべての現象を数値化する）
4. 代表値
5. 標準偏差、
6. 分布（正規分布）
7. 仮説検定：偶然に起こる確率を調べる。
8. 2群の比較：ランダム化比較試験（RCT）
9. 対応のないt検定①（F検定）
10. 対応のないt検定②
11. 対応のあるt検定③
12. t検定の応用
13. その他の検定
14. 筆記試験
15. 総括

成績の評価

授業に取り組む態度、筆記試験結果などから総合的に評価する。

自己学習

医学推計学の問題を自分で解くため、適時、宿題を出す。

履修上の注意

学んだ内容を自分で考えて、理解することを心がける。
授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は受験資格を失う。

テキスト

プリント配布

参考文献

適宜紹介する

オフィスアワー

月曜日・水曜日の昼休み、前もって予約していただければ可能な限り対応致します。

研究室

診療・研究棟 3階 312研究室

授業用E-mail

yamamoto@kansai.ac.jp

講義コード	3A049011
講義名	医事法規
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2201
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 組口 庄司	指定なし

担当教員

組口 庄司

講義の目的

医事法規は多岐にわたりますが、昨今の社会的な状況を踏まえつつ各分野の法の意義を知識として身につけることを目標とする。

到達目標

医事法規の基本的な理念と実務面で、医療者として必要不可欠な法的知識を習得すること。

授業計画表

授業計画

1. 法学の基本
2. 医事法規とは、医事法学の機能
3. 医事衛生行政法の沿革
4. 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」と免許の要件等
5. 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」と業務、その他の事項
6. 関係法規① 医療法とは
7. 関係法規② 地域医療とは
8. 関係法規③ 地域医療計画
9. 関係法規④ 医療関係従事者と諸法規
10. 医療過誤と裁判、判例
11. 衛生関係法規 地域保険法、諸法規
12. 社会福祉・社会保険関係法規
13. 生命倫理と法① インフォームド・コンセント
14. 生命倫理と法② 自己決定権、告知
15. 生命倫理と法③ 判例

成績の評価

80

10

10

定期試験、レポート評価等を総合評価する。(試験 %、レポート %、平常点 %)

自己学習

法律の学習には幅広い一般常識の涵養が大事。新聞を問題意識を持って読むこと。

履修上の注意

各法規の目的、意義を踏まえ、それぞれの法の社会的な役割を理解していくこと。

テキスト

「関係法規」(医歯薬出版) 前田和彦著 東洋療法学校協会

参考文献

関係六法 例えば

「実務衛生行政六法」 新日本法規

「医療の法律学」(有斐閣) 植木哲著

「医事法入門」(有斐閣) 手嶋豊著

「医療と法を考える」(有斐閣) 樋口範雄著

講義コード	3A067021
講義名	英語表現法Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1304
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 瀬戸 義隆	指定なし
非常勤	板垣 浩正	指定なし

担当教員

板垣 浩正(前期)・瀬戸 義隆(後期)

講義の目的

現代国際社会に対する視野を広げ、最新的话题を英語で学び、「読む・聞く・書く・話す」といった基本的な英語能力を身に付けることを目的とします。また、グループ内での学習を通して、自分自身の考えを他者が理解できるように発信するために必要な論理的思考やコミュニケーション能力の向上も目指します。受講者数・受講生の理解に応じて、進度は変更する場合があります。

到達目標

本講義内で使用されている基本的な英語表現を習得し、会話に応用することが出来る。自分の身近な事柄や社会の事象について、意見を述べ、辞書を使って書くことが出来る。自分の専門分野について、2～3分程度、英語や日本語で説明することが出来る。

授業計画表

授業計画

- 1.オリエンテーション自己紹介
- 2.Unit1 Uniquely Japanese Hospitality
- 3.Unit4 Humanoids in the Aging Society
- 4.Unit5 No longer a Man's World
- 5.Unit6 What Will the 2020 Games Give Us?
- 6.Unit8 When Quakes Hit, Eruptions May Follow
- 7.Unit9 As Young as 70 Years Old
- 8.中間考査
- 9.Unit10 The Music Industry Needs to Change
- 10.Unit11 Don't Kill Lions to Prove Manhood
- 11.Unit12 How About a Nose Job in Malaysia
- 12.Unit13 Bats Carry Ebola but Don't Get It.
- 13.Unit14 Animals' "Human" Right?

- 14. Unit15 Dilemma of Hippocratic Oath
- 15. 期末考査
- 16. 後半オリエンテーション
- 17. Unit1: Summer Weight Gain
- 18. Unit2: Sugar in Danger
- 19. Unit3: Adult Diapers Outsell Baby Diapers
- 20. Unit4: Medical Robots
- 21. Unit5: Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide
- 22. Unit6: How Emergency Rooms Work
- 23. Group Work 1
- 24. Unit7: Keep Your Heart Moving
- 25. Unit8: Teens Light Up E-Cigarettes
- 26. Unit9: Curing Peanut Allergies
- 27. Unit10: Cancer and Poverty
- 28. Unit11: AED
- 29. Unit12: Global Warming Triggers Disease
- 30. Group Work 2

成績の評価

平常点 60%

期末レポート試験 40%

自己学習

授業中で指示された箇所の予習、復習をすること。日本語や英語での要旨の作成、暗誦を課す場合があります。

履修上の注意

辞書とテキストは必携。授業へ積極的に参加することが重要です。

テキスト

1. 「Reading in Action Basic」(金星堂) 静哲人
2. 「世界に見る医療と看護 (Caregiver-New Edition)」(朝日出版社) 近藤進他

参考文献

講義内で紹介します。

講義コード	3A072011
講義名	応急処置実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2716
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

担当教員

金井成行・津田和志・畑村育次・尾原弘恭・山口由美子

講義の目的

運動中に出現しやすい病態を把握し、その際の一次救命処置・応急処置について習得する

到達目標

緊急事態に適切に行動できる者を養成

授業計画表

授業計画

1. 運動中止の判定
2. 運動中に起こる疾患（外科） 1
3. 運動中に起こる疾患（外科） 2
4. 運動中に起こる疾患（外科） 3
5. 運動中に起こる疾患（内科） 1
6. 運動中に起こる疾患（内科） 2
7. やけど、けいれん、溺水
8. 救急、救助の現況
9. 一次救命処置の手順
10. 心肺蘇生
11. AEDを用いた救命処置
12. 気道異物除去、止血法
13. テーピング 1
14. テーピング 2
15. テーピング 3

成績の評価

5人の講師による各20%配分の筆記試験、レポートを行う

自己学習

授業で指示する

履修上の注意

健康、体力づくり事業団が認定する〔健康運動実践指導者〕を受験する学生は、当該科目を履修しなければならない

テキスト

健康運動実践指導者養成テキスト（財）健康、体力づくり事業団

オフィスアワー

金井：月曜日（昼休み）

津田：木曜日（16時～17時診療所にて）出張で留守の時もあるので事前に確認を入れて下さい。

畑村：木曜日（1時～2時半）

尾原：木曜日・金曜日（放課後）

山口：月曜～木曜日（昼休み・16：20～17：00）

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ることをおすすめします。

研究室

研究診療棟

409研究室（金井）、405研究室（津田）、402研究室（畑村）、310研究室（尾原）、415研究室（山口）

授業用E-mail

kanai@kansai.ac.jp

講義コード	3A119011
講義名	健康づくり概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2715
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員

五十嵐 純

講義の目的

少子・高齢化、要介護高齢者の増加、生活習慣病の増加、医療費の増加など社会を取り巻く環境は大きく変化し、健康づくりの重要性はますます増加している。一方、健康づくりには運動、栄養、休養の三本柱の重要性が知られており本講座ではこれらと健康との関わりについて学ぶ。また、メタボリックシンドロームに有効な有酸素運動や高齢者の転倒防止に有効な筋力トレーニング、柔軟性を増加させるストレッチングや運動を行う上で基礎となるトレーニングの原理などについての理解も深める。

到達目標

健康に関する現代社会の問題点を理解する。
健康づくりに有効な運動の知識を深める。
運動プログラムがつけられるようになる。

授業計画表

授業計画

- 1.健康づくりとは、健康づくりに関する基礎知識
- 2.健康づくりのための身体活動基準2013、メッツ
- 3.健康づくりのためのトレーニングの原則、運動量と運動強度
- 4.健康づくり運動プログラム作成の基礎
- 5.ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6.有酸素運動とその効果①
- 7.有酸素運動とその効果②
- 8.レジスタンス運動
- 9.健康づくりと運動プログラムのまとめ
- 10.運動実践にかかわる社会、心理、環境的要因
- 11.健康づくりの身体の機能
- 12.健康づくりと身体の構造
- 13.健康によい運動

- 14.健康づくりと公衆衛生 健康づくりと栄養
15.スポーツにおける傷害と処置

成績の評価

定期試験を70%、小テストを30%にて評価する。

自己学習

前回までに学んだ内容の小テストを行うため、プリントや板書した内容について、十分復習すること。

履修上の注意

理論として理解することは大切なことであるが、それを普段の生活で実践するように心がけること。

遅刻、早退は1/3欠席として計算する。

教員に伝えずに途中退席しないこと。もしそのような者を発見したときは欠席とする。

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」、「JATI認定トレーニング指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

詳しくは、巻末を参照して下さい。

テキスト

「健康運動実践指導者用テキスト」

健康・体力づくり事業財団

参考文献

特になし

オフィスアワー

木曜の昼休み

研究室

診療・研究棟4階 401研究室

授業用E-mail

igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	3A122011
講義名	健康管理学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2714
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津田 和志	指定なし

担当教員

津田和志

講義の目的

健康管理学は人間の健康の維持・増進に関する学問である。本講座では、健康は、運動、栄養、休養の調和のとれた生活を送ることが重要であるとの考えから、運動、栄養、休養と健康に関する知識を習得する。

到達目標

健康に影響を及ぼす様々な生活習慣や環境要因、健康を脅かす病気の実態についても予防医学としての視点から述べるとともに、不健康な生活は「介護予防」を早めることを理解させ、個人の健康管理が個人だけの問題ではなく、社会全体に対する問題であることも認識させる。

授業計画表

授業計画

1. 病気、健康、体力の概念(1)
2. 病気、健康、体力の概念(2)
3. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(1)
4. 疾病構造の変化、健康づくりに果たす運動の役割(2)
5. 高齢化社会の傾向と現状、高齢者の健康管理
6. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(1)
7. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(2)
8. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(3)
9. 高血圧、脂質代謝異常、糖尿病に代表される生活習慣病の危険因子(4)
10. 運動による生活習慣病の予防効果(1)
11. 運動による生活習慣病の予防効果(2)
12. 運動による生活習慣病の予防効果(3)
13. 運動前のメディカルチェック
14. 救急時の対応(1)
15. 救急時の対応(2)

成績の評価

前期の試験、ならびに出席状況、授業態度により総合的に評価する

自己学習

教科書の予習

履修上の注意

基本的に欠席しないこと

テキスト

健康運動実践指導者 養成用テキスト
(健康、体力づくり事業財団)
履修希望者は必ずテキストを購入すること

参考文献

内科学 (朝倉書店)

オフィスアワー

木曜日内科外来終了後 (内科外来にて15:30頃より)。会議、出張が多いので事前連絡必要。

研究室

405

授業用E-mail

tsudak@kansai.ac.jp

講義コード	3A243011
講義名	総合演習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-5002
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池藤 仁美	指定なし

担当教員

池藤 仁美・山崎 寿也・榎田 高士・戸村 太郎・内田 靖之・中吉 隆之

講義の目的

本演習は、「キャリア教育科目」に指定されているため、はり師・きゅう師の国家資格を取得する時、あるいはその先も含め将来的にも必須となる「学び方」の学修および、e-learning (KUHS2 Moodle) を活用しての学修方法の習得する。

また、4年次の「総合演習Ⅱ」と関連した内容（衛生学・解剖学・生理学・東洋医学概論）についても講義を行う。

到達目標

- ・大学生として必要な「学修」の再確認
- ・e-learningの活用方法を習熟する
- ・4年次の「総合演習Ⅱ」と連携してはり師・きゅう師国家試験対策に繋げる。

授業計画表

授業計画

1. 「学修 (learning) 」とは
2. 「学修 (learning) 」と「教育 (Teaching) 」の違い
3. e-learningシステム (KUHS2 Moodle) の使い方、ノート作成の意義・方法
4. 演習Ⅰ
5. 演習Ⅱ
- 6,7. 生理学 (内田)
- 8~10. 衛生・公衆衛生学 (榎田)
- 11,12. 東洋医学概論 (中吉)
- 13~15. 解剖学 (戸村)

成績の評価

試験80%、解説ノート10%、平常点10%にて評価。なお、試験および解説ノートの評価には、期末試験のみならず、国家試験対策模擬試験の成績、不正解であった問題に対する解説ノートも含める。

自己学習

KUHS2 Moodleを活用して、関連問題の解答に取り組むこと。

履修上の注意

1回目～5回目は5号館3階情報処理室での実施となる。他は追って連絡する。

事前に<http://k-harikyu.lolipop.jp>に入り、[テスト&勉強]から、KUHS2 Moodleに入り、登録（アカウント（ユーザ名やパスワード）を取得）しておくこと。

6回目以降は当該科目の教科書もしくは資料を持参すること。

テキスト

当該科目の教科書・資料

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日昼休み（池藤）

空いている時間に対応しますので、メール等で事前連絡ください。

研究室

診療・研究棟3F 教員室（池藤）

授業用URL

<http://k-harikyu.lolipop.jp/moodle>

授業用E-mail

ikefuji@kansai.ac.jp

講義コード	3A268011
講義名	東洋医学各論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-4105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王財源	指定なし

担当教員

王財源

講義の目的

1年次、2年次に習得した、東洋医学の専門的な基礎知識を集積し、疾病の構造を伝統医学的に病態別分類（弁証論治）する。とくに3年次には、望診、聞診、問診、切診による、身体に発生する疾病と四診との関係性を明らかにする専門的な知識が必要であることから、再度、伝統医学的な基本概念に復習を重ね、「弁証」と「弁病」の関係について、「四診」による診断情報を用いて分析する能力を習得することを講義目的とする。

- ①八綱弁証
- ②病邪弁証
- ③気血弁証
- ④臓腑弁証
- ⑤経絡弁証

以上の弁証による「証」を決定する症例分析能力を習得する。

到達目標

異なった病因と病機は弁証を行う上で重要なカギを握る。本講義では弁証と弁病の考え方を実践的に取り組むために具体的な弁証・処方・配穴といった治療概念を育てる。また、所見、症例に対する分析能力を到達目標とし、試験合格の可否をもって最終単位を認定する。

授業計画表

授業計画

- 1.総論 四診と証候分析
- 2.頭痛【真頭痛・頭風】
- 3.顔面痛【頬痛】、顔面麻痺【口喎】
- 4.胸痛【胸痺】、脇痛【脇下痛】
- 5.腰下肢痛・坐骨神経痛【脊痛腰似折】
- 6.不眠【目不瞑・不寢】
- 7.疲労と倦怠【怠惰・体惰】
- 8.肩凝り,五十肩【肩痺痛・肩背痺痛】

9. 頸肩腕痛【頸項痛】
10. 上肢痛【肩前臑痛・臂痛】
11. 膝痛【膝中痛・鶴膝風・歴節風】
12. 運動麻痺【癱瘓・痿躄】
13. 歯痛【牙齒痛・齲齒】
14. 鼻閉【鼻塞】、鼻汁【流涕】
15. 耳鳴り、難聴【耳聾】
16. 咳嗽【上気】
17. 喘息【哮喘・喘鳴】
18. 発熱【畏寒発熱】
19. 腹痛【胃脘痛】
20. 悪心と嘔吐【嘔気】
21. 便秘【脾約】、下痢【泄瀉・濡瀉】
22. 食欲不振【納呆】
23. 月経異常【月経紊乱】
24. 排尿障害【癃閉】
25. インポテンツ【陽痿】
26. めまい【頭眩・眩暈】
27. 高血圧【肝風】、低血圧【虚損】
28. 肥満【肥貴人】、脱毛症【髮墮】
29. のぼせと冷え【寒厥・厥逆】
30. 眼精疲労【目昏】

成績の評価

試験90%・レポート10%
 前期50%＋後期50%＝最終評価とする。

自己学習

- ①基礎知識を用いた応用能力が問われる。
- ②1年と2年次で学んだ診断学や蔵府学を基軸に、具体的な証候分析を現代医学的な病名より「理」「法」「方」「穴」「術」の原則に基づいた病証の発生機序や治療理論について理解を深めること。
- ③伝統医学的な基本概念の習得が、応用能力を養う第一歩のため、テキスト以外の多くの専門書籍を読破し、さらに専門知識を深め、患者の病態を把握するための、伝統医療文化に育まれた東洋の知恵の習得に全力を置くこと。

履修上の注意

- ①スマートフォンなどの携帯電話とゲーム機器、飲食の禁止。
- ②レポート評価は出題テーマと一致したもので、新しい発見があり、さらにそれらを公的な出版物を介して検証できたものが望ましい。ネットや書籍よりのコピーが必要な場合は引用先を明確にし、出題テーマとの整合性を鑑みておくこと。

テキスト

『東洋医学臨床論』（医道の日本社）東洋療法学校協会

参考文献

- 『わかりやすい臨床中医臟腑学』第三版(医歯薬出版)王財源
 『わかりやすい臨床中医診断学』第二版(医歯薬出版)王財源
 『わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング』(医歯薬出版)王財源
 『痛みのマネジメントー西洋医学と鍼灸医学からのアプローチー』(医歯薬出版)加納龍彦、田山文隆ほか
 『経筋・経別・奇経診療』(厚生社)岡田勝

オフィスアワー

木曜日午後。
 面談時には事前にメールで連絡してください。

研究室

診療・研究棟 号室

授業用E-mail

cai@kansai.ac.jp

講義コード	3A374011
講義名	和漢診療学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A3-2701
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 金井 成行	指定なし

担当教員

金井成行

講義の目的

漢方医学的な考え方、診断技術を習得する事を目標とする。和漢診療学とは、東洋医学独自の四診によって、患者の病態を総合的に”証”として捉え、治療のための方剤を決定する。いわゆる随証治療を主体とする治療学である。鍼灸治療は、人体の”経絡”現象に基づく全人的な随証治療であり、和漢薬治療の特質を学ぶことで、和漢薬が処方できる鍼灸師を目指す

到達目標

いわゆる”漢方医”と同等の知識レベルを目指す

授業計画表

授業計画

1. 漢方薬の基礎
2. 整形外科疾患 (1)
3. 整形外科疾患 (2)
4. 婦人科疾患 (1)
5. 婦人科疾患 (2)
6. 内科 (感冒、インフルエンザ) 疾患
7. 内科疾患 (高血圧、糖尿病、高脂血症)
8. 内科疾患 (便秘、下痢)
9. 皮膚科疾患
10. 老人疾患 (骨粗鬆症)
11. 小児疾患
12. 精神科疾患
13. 眼科・耳鼻科疾患
14. まとめ
15. 筆記試験

成績の評価

毎回小テストを実施し、授業最終日に筆記試験を行う

履修上の注意

国家試験に直接関係しない講義、特に” 帰膠艾湯”や”治頭瘡一方”などの難解な漢方薬の暗記も必要なので、興味がある人の受講が望ましい。成績には、特に出席態度（遅刻、早退、私語、居眠りなど）が反映する

オフィスアワー

月曜日昼休み

研究室

診療・研究棟4階409研究室

授業用E-mail

kanai@kansai.ac.jp

講義コード	3A393011
講義名	鍼灸診察法ⅠA
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2605
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員

山崎寿也

講義の目的

本実習は、4年次配当の患者を対象とする「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」に繋げる重要な科目である。附属鍼灸治療所での実習に向け、鍼灸治療に至る過程である医療面接、血圧測定、身体診察などについて習得することを目的とする。

到達目標

医療面接において関与しながらの観察ができる。
適切に血圧が測定ができ、鍼灸治療による変化が説明できる。
運動器疾患の鑑別、病態把握のための整形外科的徒手検査法や神経学的な診察ができる。

授業計画表

授業計画

1. 本実習のねらいと進め方 / 医療面接のしかた
2. 血圧測定の意義と適切な測定法 / 低周波鍼通電量法の基礎と機器の取扱い
3. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
4. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
5. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
6. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
7. 頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法[まとめ]
8. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
9. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
10. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
11. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
12. 腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法[まとめ]
13. 鍼灸併用物理療法の基礎と機器の取扱い
14. 模擬治療
15. 模擬治療

成績の評価

医療面接・血圧測定・身体診察法などの客観的臨床能力試験（OSCE）50%・期末（学科）試験40%・実習に臨む姿勢やレポート課題10%で評価する。

自己学習

人体の構造・機能、病因病態学、臨床医学などの西洋医学の知識、および東洋医学概論・臨床論、鍼灸基礎・応用実習、鍼灸臨床実習などの東洋医学の知識と技術も含めて総合的な知識・技術が必要である。

履修上の注意

附属鍼灸治療所での実習を想定し、各週の内容を十分に修得できるよう積極的な姿勢で臨むこと。

テキスト

特に指定せず、資料を配布する。

参考文献

「鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック」（医道の日本社）出端昭男

「鍼通電療法テクニック」（医道の日本社）山口真二郎

「新訂 方法としての面接」（医学書院）土居健郎

オフィスアワー

水曜日昼休み

その他の教員のオフィスアワーやメールアドレスなどは別途、一覧表を参考にすること。

研究室

診療・研究棟4階412研究室

授業用E-mail

sakaguti@kansai.ac.jp

講義コード	3A393012
講義名	鍼灸診察法ⅠB
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2605
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

担当教員

山崎寿也

講義の目的

本実習は、4年次配当の患者を対象とする「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」に繋げる重要な科目である。附属鍼灸治療所での実習に向け、鍼灸治療に至る過程である医療面接、血圧測定、身体診察などについて習得することを目的とする。

到達目標

医療面接において関与しながらの観察ができる。
適切に血圧が測定ができ、鍼灸治療による変化が説明できる。
運動器疾患の鑑別、病態把握のための整形外科的徒手検査法や神経学的な診察ができる。

授業計画表

授業計画

- 1.本実習のねらいと進め方 / 医療面接のしかた
- 2.血圧測定の意義と適切な測定法 / 低周波鍼通電量法の基礎と機器の取扱い
- 3.頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
- 4.頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
- 5.頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
- 6.頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
- 7.頸肩腕痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法[まとめ]
- 8.腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
- 9.腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
- 10.腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
- 11.腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法
- 12.腰下肢痛の鑑別・医療面接・整形外科的徒手検査法や神経学的な診察・治療法[まとめ]
- 13.鍼灸併用物理療法の基礎と機器の取扱い
- 14.模擬治療
- 15.模擬治療

成績の評価

医療面接・血圧測定・身体診察法などの客観的臨床能力試験（OSCE）50%・期末（学科）試験40%・実習に臨む姿勢やレポート課題10%で評価する。

自己学習

人体の構造・機能、病因病態学、臨床医学などの西洋医学の知識、および東洋医学概論・臨床論、鍼灸基礎・応用実習、鍼灸臨床実習などの東洋医学の知識と技術も含めて総合的な知識・技術が必要である。

履修上の注意

附属鍼灸治療所での実習を想定し、各週の内容を十分に修得できるよう積極的な姿勢で臨むこと。

テキスト

特に指定せず、資料を配布する。

参考文献

「鍼灸臨床 問診・診察ハンドブック」（医道の日本社）出端昭男

「鍼通電療法テクニック」（医道の日本社）山口真二郎

「新訂 方法としての面接」（医学書院）土居健郎

オフィスアワー

月曜日昼休み

空いている時間はなるべく対応しますので、メール等で事前連絡がある方が確実です。

研究室

診療・研究棟3F 311研究室

授業用E-mail

yamazaki@kansai.ac.jp

講義コード	3A394011
講義名	鍼灸診察法ⅡA
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2606
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

担当教員

坂口俊二

講義の目的

本実習は、4年次配当の患者を対象とする「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」に繋げる重要な科目である。附属鍼灸治療所での実習に向け、鍼灸診察法Ⅰの内容に加え、東洋医学的な診察法を鍼灸配穴を習得習得することを目的とする。

到達目標

鍼灸視察法Ⅰの到達目標に加え、
 基本的な脈診・舌診・腹診ができる。
 医療面接の情報を東洋医学的に理解できる。
 鍼灸配穴を考え、治療ができる。

授業計画表

授業計画

1. 頭痛の鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法
2. 頭痛の鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法
3. 耳鳴・めまいの鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法
4. 耳鳴・めまいの鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法
5. 東洋医学的診察法（脈診）
6. 東洋医学的診察法（舌診）
7. 東洋医学的診察法（腹診）
8. 東洋医学的診察法（候背診）
9. 鍼灸配穴（要穴の運用）
10. 経筋治療
11. 模擬治療
12. 模擬治療
13. 模擬治療
14. 診療録の意義と作成 / 症例報告の書き方
15. 附属鍼灸治療所でのオリエンテーション / 総復習

成績の評価

医療面接・東洋医学的診察法、鍼灸実技などの客観的臨床能力試験（OSCE）50%・期末（学科）試験40%・実習に臨む姿勢やレポート課題10%で評価する。

自己学習

鍼灸診察法Ⅰの学修を踏まえ、さらに東洋医学的な病態把握から鍼灸配穴が組み立てられるよう、東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論の内容を合わせて深く学修する必要がある。

履修上の注意

附属鍼灸治療所での実習を想定し、各週の内容を十分に修得できるよう積極的な姿勢で臨むこと。

テキスト

科目内容にかかる東洋療法学校協会編の教科書とし、それ以外は資料を配付する。

参考文献

「日本鍼灸の診断学」（メディカルユーコン）有馬義貴、森洋平

オフィスアワー

火曜日～金曜日の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階416研究室

授業用E-mail

nabeta@kansai.ac.jp

講義コード	3A394012
講義名	鍼灸診察法ⅡB
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2606
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員

鍋田理恵

講義の目的

本実習は、4年次配当の患者を対象とする「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」に繋げる重要な科目である。附属鍼灸治療所での実習に向け、鍼灸診察法Ⅰの内容に加え、東洋医学的な診察法を鍼灸配穴を習得習得することを目的とする。

到達目標

鍼灸視察法Ⅰの到達目標に加え、
 基本的な脈診・舌診・腹診ができる。
 医療面接の情報を東洋医学的に理解できる。
 鍼灸配穴を考え、治療ができる。

授業計画表

授業計画

1. 頭痛の鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法
2. 頭痛の鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法
3. 耳鳴・めまいの鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法
4. 耳鳴・めまいの鑑別・医療面接・神経学的な診察・治療法
5. 東洋医学的診察法（脈診）
6. 東洋医学的診察法（舌診）
7. 東洋医学的診察法（腹診）
8. 東洋医学的診察法（候背診）
9. 鍼灸配穴（要穴の運用）
10. 経筋治療
11. 模擬治療
12. 模擬治療
13. 模擬治療
14. 診療録の意義と作成 / 症例報告の書き方
15. 附属鍼灸治療所でのオリエンテーション / 総復習

成績の評価

医療面接・東洋医学的診察法、鍼灸実技などの客観的臨床能力試験（OSCE）50%・期末（学科）試験40%・実習に臨む姿勢やレポート課題10%で評価する。

自己学習

鍼灸診察法Ⅰの学修を踏まえ、さらに東洋医学的な病態把握から鍼灸配穴が組み立てられるよう、東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論の内容を合わせて深く学修する必要がある。

履修上の注意

附属鍼灸治療所での実習を想定し、各週の内容を十分に修得できるよう積極的な姿勢で臨むこと。

テキスト

科目内容にかかる東洋療法学校協会編の教科書とし、それ以外は資料を配付する。

参考文献

「日本鍼灸の診断学」（メディカルユーコン）有馬義貴、森洋平

オフィスアワー

水曜日の昼休み

その他の教員のオフィスアワーやメールアドレスなどは別途、一覧表を参考にすること。

研究室

診療・研究棟4階412研究室

授業用E-mail

sakaguti@kansai.ac.jp

講義コード	3A395011
講義名	鍼灸特殊治療法
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2401
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉備 登	指定なし

担当教員

百合邦子

講義の目的

東洋医学の近代的応用治療法を紹介・解説する。必要に応じて実技指導も行う。授業内容は理論だけでなく治療方法も特殊な方法で、学んだ治療法は実際の臨床においても高い有用性が期待できる。

到達目標

さらなる特殊な鍼灸治療理論と技術を実際に使えるようになること。

授業計画表

授業計画

1. 良導絡自律神経調整療法1 (概要)
2. 良導絡自律神経調整療法2 (全良導絡調整療法)
3. 良導絡自律神経調整療法3 (全良導絡調整療法)
4. 良導絡自律神経調整療法4 (反応良導点療法・ER鍼)
5. 知熱感度測定法・皮内鍼1
6. 知熱感度測定法・皮内鍼2
7. 頭皮鍼・髪際鍼治療1
8. 頭皮鍼・髪際鍼治療2
9. 灸頭鍼1
10. 灸頭鍼2
11. 小児鍼
12. 擦過鍼
13. 耳鍼
14. 手鍼
15. 低周波鍼通電療法

成績の評価

前期筆記試験80%、平常点20%で評価する。

自己学習

あらかじめテキストおよび配布された鍼灸特殊治療法のプリントで、学習し内容を把握し、質問があれば準備してくる。

履修上の注意

鍼灸治療所での実習を想定して各週の内容を十分に習得すること。

テキスト

「良導絡自律神経調整療法 基礎編」浪速社 日本良導絡自律神経学会学術部
鍼灸特殊治療法のプリントを配布する。

参考文献

「鍼通電療法テクニック」（医道の日本社）山口真二郎
「わかりやすい小児鍼の実際」（源草社）谷岡賢徳
「新しい鍼灸臨床入門（松栄印刷）和田清吉

オフィスアワー

金曜日 放課後

研究室

診療・研究棟3階 304研究室

授業用E-mail

kibi@kansai.ac.jp

講義コード	3A402011
講義名	鍼灸臨床実習ⅡA（神経系）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2603
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 谷 万喜子	指定なし

担当教員

谷 万喜子・木村 研一

講義の目的

この科目は、神経系疾患に対する鍼灸治療実習です。神経系疾患の症状の特徴、鍼灸治療の適・不適の鑑別や鍼灸治療の方法などを講義し、臨床に即した治療実習を行う。

到達目標

鍼灸臨床で活かせる知識と技術を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 頭痛 (p.14-18)
 2. 顔面痛 (p.18-21)
 3. 顔面麻痺 (p.22-25)
 4. 上肢痛 (p.84-87)
 5. 下肢痛 (p.87-91)
 6. 運動麻痺 (上肢) (p.93-98)
 7. 運動麻痺 (下肢) (p.93-98)
- 以上、木村担当
8. 胸痛 (p.48-50)
 9. 不眠 (p.114-116)
 10. 疲労と倦怠 (p.117-119)
 11. 運動麻痺 (脳血管障害) (p.93-98)
 12. 中枢神経疾患 (パーキンソン病・ジストニアなど)
 13. 精神神経疾患 (心身症など)
 14. 老年医学 (p.144-152)

以上、谷担当

15. まとめ

※ () 内は、「東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」のページ数

成績の評価

後期末試験（60%）・平常点（40%）にて評価する。

自己学習

前もって経穴学、東洋医学概論、解剖学、生理学、病理学、診断学、治療学などの復習をしておくこと。

履修上の注意

実習中は指示された施術に真剣に取り組み、指示以外の施術は行ってはいけません。

テキスト

「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本社）東洋療法学校協会編
他に適宜プリント配布を行う。

参考文献

「図解 鍼灸療法技術ガイド」（文光堂）矢野 忠編集主幹
「鍼灸臨床マニュアル」（医歯薬出版）北村 智、森川和宥
「臨床医学総論」（医歯薬出版）奈良信雄著
「臨床医学各論」（医歯薬出版）椎名晋一

研究室

診療・研究棟4階416研究室（谷）

診療・研究棟4階414研究室（木村）

授業用E-mail

tani@kansai.ac.jp

講義コード	3A402012
講義名	鍼灸臨床実習ⅡB（神経系）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2603
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

担当教員

谷 万喜子・木村 研一

講義の目的

この科目は、神経系疾患に対する鍼灸治療実習です。神経系疾患の症状の特徴、鍼灸治療の適・不適の鑑別や鍼灸治療の方法などを講義し、臨床に即した治療実習を行う。

到達目標

鍼灸臨床で活かせる知識と技術を身につける。

授業計画表

授業計画

1. 頭痛 (p.14-18)
 2. 顔面痛 (p.18-21)
 3. 顔面麻痺 (p.22-25)
 4. 上肢痛 (p.84-87)
 5. 下肢痛 (p.87-91)
 6. 運動麻痺 (上肢) (p.93-98)
 7. 運動麻痺 (下肢) (p.93-98)
- 以上、木村担当
8. 胸痛 (p.48-50)
 9. 不眠 (p.114-116)
 10. 疲労と倦怠 (p.117-119)
 11. 運動麻痺 (脳血管障害) (p.93-98)
 12. 中枢神経疾患 (パーキンソン病・ジストニアなど)
 13. 精神神経疾患 (心身症など)
 14. 老年医学 (p.144-152)
- 以上、谷担当

15. まとめ

※ () 内は、「東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」のページ数

成績の評価

後期末試験（60%）・平常点（40%）にて評価する。

自己学習

前もって経穴学、東洋医学概論、解剖学、生理学、病理学、診断学、治療学などの復習をしておくこと。

履修上の注意

実習中は指示された施術に真剣に取り組み、指示以外の施術は行ってはいけません。

テキスト

「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本社）東洋療法学校協会編
他に適宜プリント配布を行う。

参考文献

「図解 鍼灸療法技術ガイド」（文光堂）矢野 忠編集主幹
「鍼灸臨床マニュアル」（医歯薬出版）北村 智、森川和宥
「臨床医学総論」（医歯薬出版）奈良信雄著
「臨床医学各論」（医歯薬出版）椎名晋一

オフィスアワー

火曜日(12:00～13:00)

研究室

診療・研究棟4階416研究室（谷）

診療・研究棟4階414研究室（木村）

授業用E-mail

k.kimura@kansai.ac.jp

講義コード	3A428011
講義名	鍼灸臨床実習ⅠA（運動器系）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2602
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 北川 洋志	指定なし

担当教員

川本正純

講義の目的

「運動器疼痛」に対する鍼灸治療法を学ぶ目的は二つ。一つは国試対策。もう一つは現代医学よりも優位に立てる唯一の臨床領域(運動器疼痛)の鎮痛技法、考え方を身に付けること。

到達目標

臨床、スポーツ現場で使えるレベルの技術習得。

授業計画表

授業計画

1. 肩こり(筋膜性の痛みと凝り感)
2. 肩こり(肩凝りに関連する諸症状)
3. 頸部痛(頸こり、外傷性頸部症候群、寝違い)
4. 頸肩腕痛(頸椎症、痺証、スポーツ障害、捻挫)
5. 肩関節痛(上腕二頭筋長頭腱炎、五十肩)
6. 肩関節痛(野球肩)
7. 上肢痛(胸郭出口症候群)
8. 上肢痛(テニス肘、腱・腱鞘炎)
9. 腰下肢痛(筋・筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛)
10. 腰下肢痛(坐骨神経痛、梨状筋症候群)
11. 腰下肢痛(大腿痛、肉離れ)
12. 股関節痛
13. 下腿・足の痛み(アキレス腱炎、足底腱膜炎、コンパートメント症候群、シンスプリント)
14. 膝関節痛(ジャンパー膝、オスグッド病)
15. 膝関節痛(変形性膝関節症)

成績の評価

試験80%、実技テスト（紙上施灸、片手挿管）各10%、平常点10%にて評価

自己学習

授業内容について、臨床医学総論・各論、解剖学、経穴学、東洋医学概論テキストの対応部分を復習・整理してノートを作成する。

履修上の注意

1. 「自己流」は巧くなれないばかりか事故も発生し易い。実習中は指示通りの施術を心掛けること。
2. 技術は反復練習しないと身に付かない。自己練習時に実習内容を正確に再生できるよう。メモ、ノートをとること。
3. 私語については自分は勿論、他社の技術習得を妨害する。制止の指示には従うこと。
4. バッグ（カバン）、飲食物の持ち込みは原則禁止。

テキスト

「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本）東洋療法学校協会

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日 昼休み

研究室

診療・研究棟3階鍼灸教員室

授業用E-mail

kitagawa@kansai.ac.jp

講義コード	3A428012
講義名	鍼灸臨床実習ⅠB（運動器系）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2602
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍋田 理恵	指定なし

担当教員

川本正純

講義の目的

「運動器疼痛」に対する鍼灸治療法を学ぶ目的は二つ。一つは国試対策。もう一つは現代医学よりも優位に立てる唯一の臨床領域(運動器疼痛)の鎮痛技法、考え方を身に付けること。

到達目標

臨床、スポーツ現場で使えるレベルの技術習得。

授業計画表

授業計画

1. 肩こり(筋膜性の痛みと凝り感)
2. 肩こり(肩凝りに関連する諸症状)
3. 頸部痛(頸こり、外傷性頸部症候群、寝違い)
4. 頸肩腕痛(頸椎症、痺証、スポーツ障害、捻挫)
5. 肩関節痛(上腕二頭筋長頭腱炎、五十肩)
6. 肩関節痛(野球肩)
7. 上肢痛(胸郭出口症候群)
8. 上肢痛(テニス肘、腱・腱鞘炎)
9. 腰下肢痛(筋・筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛)
10. 腰下肢痛(坐骨神経痛、梨状筋症候群)
11. 腰下肢痛(大腿痛、肉離れ)
12. 股関節痛
13. 下腿・足の痛み(アキレス腱炎、足底腱膜炎、コンパートメント症候群、シンスプリント)
14. 膝関節痛(ジャンパー膝、オスグッド病)
15. 膝関節痛(変形性膝関節症)

成績の評価

試験80%、実技テスト（紙上施灸、片手挿管）各10%、平常点10%にて評価

自己学習

授業内容について、臨床医学総論・各論、解剖学、経穴学、東洋医学概論テキストの対応部分を復習・整理してノートを作成する。

履修上の注意

1. 「自己流」は巧くなれないばかりか事故も発生し易い。実習中は指示通りの施術を心掛けること。
2. 技術は反復練習しないと身に付かない。自己練習時に実習内容を正確に再生できるよう。メモ、ノートをとること。
3. 私語については自分は勿論、他社の技術習得を妨害する。制止の指示には従うこと。
4. バッグ（カバン）、飲食物の持ち込みは原則禁止。

テキスト

「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本）東洋療法学校協会

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日～金曜日の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階416研究室

授業用E-mail

2c@kansai.ac.jp

講義コード	3A429011
講義名	臨床医学Ⅲ（内科系）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2105
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし
非常勤	宗 正敏	指定なし

担当教員

宗 正敏・近藤 哲哉

講義の目的

「臨床医学Ⅰ（医学総論）」で学んだ西洋医学的知識を基礎とし、内科系各分野の具体的疾患について原因・症状・診断法・治療法について学習する。

到達目標

内科系各分野の疾患に対する知識を集積し、臨床時に的確に対応できる基礎力を身に付ける。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 細菌感染症
3. ウイルス感染症
4. 性感染症
5. 口腔疾患・食道疾患
6. 胃・十二指腸疾患
7. 腸疾患
8. 肝臓疾患
9. 胆道疾患・臓器疾患
10. 感染性呼吸器疾患
11. 閉塞性・拘束性呼吸器疾患
12. 原発性糸球体腎炎・腎不全
13. 腎・尿路感染症
14. 内分泌・代謝・栄養疾患
15. 前期のまとめ
16. 心臓弁膜症
17. その他心疾患、冠動脈
18. 動脈、血圧

19. 赤血球、白血球
20. リンパ、出血、脳血管
21. 神経感染
22. 神経腫瘍、変性
23. 認知症、筋運動、末梢神経
24. 頭痛
25. 膠原病
26. 小児科、外科
27. 外科
28. 麻酔科
29. 婦人科、皮膚科、眼科
30. 耳鼻科、精神科、心療内科

成績の評価

前期は期末試験（80%）、平常点（10%）、レポート（10%）で評価する。

後期は4択問題の問題集を講義中に配る。その選択肢を入れ換えた4択のマークシートの期末試験の点数と、平常点を合計する。

前期と後期を合計して6割に満たない場合、後期のマークシート試験のみを再度行い、再度合計点を計算する。

自己学習

授業計画の項目はテキストに対応しているため、予習をして臨むこと。

履修上の注意

前期15週は宗、後期15週は近藤が担当する。

出席を重視する。各回の講義ノートをしっかり作成すること。

近藤の講義では、スクリーンに映っている部分よりも上下左右が見たい場合は、その方向を指差すジェスチャーで教えるか、090-2078-2292にCメールを送るか電話してください。画面をスクロールします。質問がある場合、挙手かCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

テキスト

「臨床医学各論」〈医歯薬出版〉奈良信雄・佐藤千史・他

参考文献

「内科学書」（中山書店）小川聡・他

オフィスアワー

近藤は水曜日午前中。

研究室

診療研究棟303研究室

授業用E-mail

kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	3A430011
講義名	鍼灸のリスクマネジメント
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-4003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

担当教員

山崎 寿也

講義の目的

鍼灸治療による有害事象の発生を防止するために万全を期す必要がある。

鍼灸治療における安全基準は必ずしも明らかではないが、この鍼灸のリスクマネジメントでは病院など医療機関の安全管理・感染管理の基準を視野に入れながら講義を行う。

また、過去に報告された鍼灸過誤報告例、有害事象例、日々の臨床で遭遇する可能性のあるインシデント事例等を提示しながら、その問題点を探り、将来鍼灸師として安全に臨床が行えるように危機管理について幅広く学ぶ。

到達目標

鍼灸臨床現場で発生する可能性がある有害事象を把握し、その対策を含む危機管理ができる鍼灸師をめざす。

授業計画表

授業計画

1. 鍼灸のリスクマネジメント総論
2. 医療過誤の種類とその防止Ⅰ 気胸
3. 医療過誤の種類とその防止Ⅱ 折鍼
4. 医療過誤の種類とその防止Ⅲ 伏鍼・神経損傷
5. 医療過誤の種類とその防止Ⅳ 施灸における熱傷
6. 医療過誤の種類とその防止Ⅴ ME機器、器具等・設備による過誤
7. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止①：病原微生物・感染症
8. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止②：手洗い・消毒（消毒剤を含む）
9. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止③：施術野の消毒・刺鍼抜鍼時の清潔操作
10. 医療過誤の種類とその防止Ⅵ 感染防止④：洗浄・滅菌
11. 鍼灸環境の構築・保持（感染性医療廃棄物処理含む）
12. 鍼灸の適応症・問診・カルテの管理
13. システムとしての鍼灸医療事故防止 医療傷害保険他
14. 鍼灸院の展開【キャリア支援教育：外部講師による】

15. 総まとめ

成績の評価

評価は定期試験もしくはレポートで評価します。
出席は毎授業内に確認します。
確認時に不在の学生は、原則、欠席として取り扱います。

自己学習

関連する部分が多い、はりきゅう理論の「第8章：リスク管理」および衛生学・公衆衛生学の「第9章：感染症とその対策」・「第10章：消毒法」についての内容を復習しておくこと。

履修上の注意

本講義は、実際に鍼灸師として働く際に非常に必要かつ重要な内容です。確実に自分のものにして下さい。

テキスト

「鍼灸医療安全ガイドライン」（医歯薬出版） 尾崎昭弘・坂本歩 鍼灸安全性委員会編
「鍼灸医療安全対策マニュアル」（医歯薬出版） 尾崎昭弘・坂本歩 鍼灸安全性委員会編

参考文献

鍼灸マッサージに於ける医療過誤（現場からの報告）」（三王商事） 藤原義文

オフィスアワー

月曜日昼休み

空いている時間はなるべく対応しますので、メール等で事前連絡がある方が確実です。

研究室

診療・研究棟3F 311研究室

授業用E-mail

yamazaki@kansai.ac.jp

講義コード	3A431011
講義名	疼痛学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2110
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

講義の目的

現代医学も手こずる運動器慢性疼痛の実体に迫る。治せないのは「慢性痛」を捉え損なっているからで、実際運動器疼痛の臨床ではこれまでの諸学では説明困難な現象が幾つもある。そうした現象の観察を通じて推定される新たな運動器疼痛像を紹介する。

新しい疼痛像に照らと「効かない」治療の効かない理由がよく判る。発痛メカニズムを踏まえ、刺激鎮痛法の適応範囲、「効かす」為の条件等について解説する。

到達目標

運動器疼痛に関して整合性のある複合的視点を持ち、適切な治療方針が立てられる。

授業計画表

授業計画

1. 運動器疼痛の科学哲学
2. 運動器疼痛の新たな全体像
3. 機械痛と云う最善の説明
4. 刺鍼や手技で治せる痛みとは
5. しびれの由来は神経・血管だけか
6. 発痛メカニズムの構造毎の特性
7. 運動器疼痛に係わる受容器群
8. 運動痛、自発痛(持続痛)、夜間痛
9. 急性痛と慢性痛
10. 高齢者の機械痛は複雑
11. 関連痛は皮質で生じる部位錯覚
12. 痛み発生源の検索法
13. 貫通触覚－鍼尖で硬結が判る訳
14. 刺激療法のリスク1－診断時
15. 刺激療法のリスク2－治療時

成績の評価

試験100%

自己学習

講義中に理解不十分だった事柄は、参考文献、web等で調べ、配布資料に書き入れる。

履修上の注意

声が聞き取れない、説明では理解できない場合など、隣に訊かず(私語せず)に質問する。

テキスト

配布プリント

参考文献

津田敏秀「医学と仮説」岩波書店
ジョー・マーチャント「『病は気から』を科学する」講談社
その他、適宜紹介

オフィスアワー

水曜、12:30–13:00

研究室

診療・研究棟3F 306研究室

授業用E-mail

kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	3A432011
講義名	予防とコンディショニングⅡ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2113
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員

寺岡祐助

講義の目的

コンディショニングは競技スポーツにおいて欠かすことの出来ない概念である。しかしながら、競技成績のみを追いかけることは傷害のリスクを高めていることと同義である。本講義・実習では競技力の健全な発揮を求めるコンディショニングと傷害リスクの除外である予防をどのように組み合わせる選手へ処方していくか、実践を交えて指導力の向上を目指す。

到達目標

競技力向上のトレーニングと予防目的のトレーニングをどのように組み合わせるのか、実践力の獲得を目指す。

授業計画表

授業計画

1. コンディショニングの基礎①
2. コンディショニングの基礎②
3. ウェイトトレーニング①
4. ウェイトトレーニング②
5. プライオメトリクス①
6. プライオメトリクス②
7. アジリティトレーニング①
8. アジリティトレーニング②
9. スタビリティ①
10. スタビリティ②
11. スタビリティ③
12. スタビリティ④
13. サーキットトレーニング①
14. サーキットトレーニング②
15. コーディネーション①
16. コーディネーション②

- 17. 持久性トレーニング①
- 18. 持久性トレーニング②
- 19. ストレッチング①
- 20. ストレッチング②
- 21. ストレッチング③
- 22. ストレッチング④
- 23. 測定・評価の基礎①
- 24. 測定・評価の基礎②
- 25. 測定（ラボテスト・フィールドテスト）①
- 26. 測定（ラボテスト・フィールドテスト）②
- 27. 評価①
- 28. 評価②
- 29. 総括①
- 30. 総括②

成績の評価

試験及びレポート、講義・実技に取り組む姿勢で評価します。

自己学習

テクニックやスキルは出来るようになることが最大の目的です。一度見たことは次出来るように、テキストの予習・復習、疑問に思ったことは質問などして解決してください。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目、及びJATIトレーニング指導者一般科目に認定されています。双方の受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られません。やむを得ない欠席・遅刻については事前に相談して下さい。尚、欠席の場合レポート等で代替することがあります。

テキスト

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑥予防とコンディショニング

参考文献

- JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト・トレーニング指導者テキスト [実践編]
(大修館書店)
- JATI認定トレーニング指導者オフィシャルテキスト・トレーニング指導者テキスト [実技編]
(大修館書店)

研究室

診療・研究棟3階311研究室（内田）

診療・研究棟3階教員室（寺岡）

講義コード	3A433011
講義名	スポーツ医学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2116
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山口 由美子	指定なし

担当教員

増田 研一

講義の目的

スポーツを実施するうえで危険はつきものです。しかし我々はそれらの危険を予測しリスクマネージメントすることで未然に防ぐ努力をします。また万が一発生してしまった疾病や傷害に対しては、迅速かつ適切な救急処置をすることが医療人としてまたスポーツトレーナーとして求められます。ここではあらゆる場面を想定し、それらに対応するための知識から実践までを学びます。

到達目標

緊急時に備え一次救命処置を一人で行なうことができる。またスポーツ現場での活動に備え現場での評価、外傷や内科的疾患に対して救急処置が適切にできる。さらに起こりうる危険に対してリスクマネージメントができ、現場における救急体制を整えることができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、救急処置の基礎的知識①
2. 救急処置の基礎的知識②
3. 救急処置の基礎的知識③、
緊急時の対応計画と外傷の評価①
4. 緊急時の対応計画と外傷の評価②
5. 緊急時の対応計画と外傷の評価③
6. 外傷時の救急対応①
7. 外傷時の救急対応②
8. 外傷時の救急対応③、緊急時の救命処置①
9. 緊急時の救命処置②
10. 緊急時の救命処置③
11. 内科疾患の救急処置①
12. 内科疾患の救急処置②
13. 内科疾患の救急処置③、現場における救急処置①

14. 現場における救急処置②

15. 現場における救急処置③

成績の評価

課題の提出、発表や学期末試験によって評価します。

自己学習

事前にテキストを読んできてください。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目・JATIトレーニング指導者一般科目に認定されています。双方の受験対象となる者については、遅刻・欠席は原則的に公認アスレティックトレーナー受験資格・公認トレーニング指導者受験資格が認められませんので、注意してください。

テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト」 （救急処置）

オフィスアワー

月曜～木曜日

昼休み・16:20～17:00

実習等で学外に出ている場合もあるので、あらかじめアポイントメントを取ることをおすすめします。また学生が多く来室するため相談内容によっては別日程で時間を確保しますので申し出て下さい。

研究室

研究・診療棟 4階 415研究室

授業用E-mail

yumiko@kansai.ac.jp

講義コード	3A434011
講義名	スポーツ医学Ⅲ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2117
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 増田 研一	指定なし

担当教員

増田 研一・中堀 千香子

講義の目的

グルメブームとともに生活習慣病が増加し、その後、食と健康や安全性の重要さが広く認識されるようになった。
 このような現代社会において求められる「健康的な食生活のあり方」の実践力を身につける。
 また、スポーツを行うことにより健康を維持、亢進しようとする試みがある。一方競技スポーツを行うためには様々な障害が発生する。このようにスポーツと健康には二面性がある。本講義では教科書的な内容を理解すると同時に、豊富な事例を示しながらスポーツ現場に即した授業を行う。

到達目標

アスリートに見られる内臓器官の疾患を理解し、特殊環境や性差、年齢により特に注意が必要な症例について学ぶ。またアスリートの食事計画の考え方、栄養欠陥による問題点を理解する。

授業計画表

授業計画

1. スポーツと循環器系疾患
2. スポーツと呼吸器系疾患
3. スポーツと消化器系疾患
4. スポーツと血液疾患
5. スポーツと腎・泌尿器疾患
6. スポーツと代謝性疾患
7. 特殊環境下のスポーツ医学①高圧・低圧環境
8. 特殊環境下のスポーツ医学②高音・低温環境、時差
9. アスリートにおける病的現象①突然死
10. アスリートにおける病的現象②食物アレルギー
11. 発育期・女性スポーツの注意点
12. ドーピングコントロール
13. アスリートの食事計画/身体組成

- 14. アスリートの水分補給
- 15. 栄養欠陥に基づく疾病と対策

成績の評価

前期試験期間中にマークシート形式で試験を行います（日本体育協会アスレティックトレーナー試験の練習も兼ねます）。その他加点対象としての課題等を与える場合があります。

自己学習

授業の内容は各種現場実習の内容ともオーバーラップしますので、自発的/積極的に予習と復習を行ってください

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナーおよびトレーニング指導者（JATI）の専門科目に設定されています。従って遅刻/欠席は認められておらず受験が認められなくなりますので十分注意してください

テキスト

- 「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④」
- 「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑨」

参考文献

特になし

講義コード	3A435011
講義名	スポーツリハビリテーションII
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-3007
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中尾 哲也	指定なし

担当教員

中尾 哲也

講義の目的

さまざまなスポーツ傷害におけるリスクを把握し、競技復帰に向けた検査測定からリハビリテーションプログラム立案を行う。

到達目標

教科書に書かれてある項目、内容について理解する。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックリハビリテーションの考え方
2. 運動療法の基礎知識
3. 運動療法の基礎知識
4. 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識
5. 物理療法と補装具の使用に関する基礎知識
6. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (体幹)
7. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (体幹)
8. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (体幹)
9. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (上肢)
10. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (上肢)
11. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (上肢)
12. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
13. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
14. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
15. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
16. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミング (下肢)
17. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
18. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
19. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング

20. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
21. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
22. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
23. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
24. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
25. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
26. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
27. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
28. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
29. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング
30. 競技種特性にもとづいたリハ・プログラミング

成績の評価

班毎の発表内容、提出レポートの内容、小テストで評価する。

自己学習

次回の授業部分の予習

履修上の注意

仲間同士助け合い、お互いの力を伸ばす意識を持つこと。

テキスト

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦」 アスレティックリハビリテーション
日本体育協会

参考文献

「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック アスレティックリハビリテーション」
「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック検査・測定と評価」
「新・徒手筋力検査法」 (協同医書出版社)

オフィスアワー

月～木の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階 (412)

授業用E-mail

nakao@kansai.ac.jp

講義コード	3A436011
講義名	伝統鍼灸学Ⅰ（澤田流）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2402
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 大谷 泰弘	指定なし

担当教員

大谷 泰弘

講義の目的

「気」は鍼灸医学における最も重要な概念である。伝統的な鍼灸治療では、「気」の働きを指標として病気の診断と治療が行われる。本講義では、この「気」の臨床について澤田流治療法より学ぶことを目的とする。

到達目標

テキストの『鍼灸真髓』は澤田健(澤田流創始者)の臨床を伝える唯一の書で、日本鍼灸界におけるバイブル的存在でもある。しかし、昭和初期の臨床について語られているため難解なところが多い。

本講義では、今日的な視点から本書を読み解きながら、澤田流鍼灸治療の真髓を紹介したい。ついでには、本書に対して自己研究可能なレベルに到達し、将来において活用できるようになることを期待する。

授業計画表

授業計画

1. 医療における東洋医学の優位性 - 温める治療
2. 鍼灸は「気」の医学 - 気は物質的存在
3. 原気とは - 自然治癒力の源となる気
4. 衛気とは - 生体防御力として働く気
5. 「気」の臨床とは - 正気と邪気
6. 澤田流鍼灸道の根本概念 - 診断と治療
7. 澤田流鍼灸処方の構成 - 本治法と標治法
8. 澤田流特効穴と神経疾患 - 神経衰弱、不眠症、頭痛など
9. 澤田流特効穴と呼吸器疾患 - 感冒、肺炎、咳嗽など
10. 澤田流特効穴と循環器疾患 - 高血圧症、心疾患、脳卒中など
11. 澤田流特効穴と消化器疾患 - 歯痛、胃痙攣、便秘、下痢など
12. 澤田流特効穴と婦人科疾患 - 月経不調、月経痛、冷え症など
13. 澤田流特効穴と運動器疾患① - 関節リウマチ、神経痛など

14. 澤田流特効穴と運動器疾患②－頸肩こり、腰痛、こむら返りなど

15. 『鍼灸眞髓』から学ぶこと－形式知を経験知へと繋ぐ方法

成績の評価

期末試験(90%)と平常点(10%)で評価します。

自己学習

- ①講義で学習した『鍼灸眞髓』の箇所は後で全文精読する
- ②参考文献『鍼灸治療基礎学』で学習内容の補強をする
- ③参考文献『東洋医学概論』で基礎知識の確認をする

履修上の注意

参考資料(主にA4サイズ)を随時配布しますので、整理のためのファイルを各自準備して下さい。

テキスト

『鍼灸眞髓』 (医道の日本社) 代田文誌

参考文献

『鍼灸治療基礎学』 (医道の日本社) 代田文誌

『東洋医学概論』 (医道の日本社) 東洋療法学校協会編

講義コード	3A437011
講義名	トリガーポイント概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2404
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

講義の目的

1970年代、トラベルにより名付けられ体系化されたトリガーポイントについて、観察される諸現象を基に、トラベルの誤りを正し、トリガーポイントを科学的用語に変換・再構成した。その過程、根拠を紹介し、トリガーポイント理解の深化を図る。

トラベル自身の否定にも拘わらず、トラベルの後継者等は「関連痛=侵害痛」の志向から抜け出していない。認知科学を主に科学化を達成したトリガーポイントの視点から、疼痛治療に於けるトリガーポイント療法の役割(適応)、検索法、治療法等について解説する。

到達目標

運動器疼痛治療におけるトリガーポイント療法の必要性を理解し、トリガーポイント治療を正しく遂行できる視点を身に付ける。

授業計画表

授業計画

1. トリガーポイント関連現象のKey概念
2. トリガーポイントの科学哲学
3. 最善の説明
4. トラベル段階のトリガーポイントはフレイク
5. 刺鍼すべきは局所か遠隔か？
6. 圧痛と圧痛点
7. 正中線、表皮を越える関連痛
8. 関連痛の発現メカニズム
9. トリガーポイント現象間の相関/因果関係
10. トリガーポイント治療の適応判断－機械痛を見分ける
11. トリガーポイント検索法1：トラベル methodの問題点
12. トリガーポイント検索法2：特徴を指標に探す
13. 高齢者における筋とTP現象の変容
14. 機械受容器、筋細胞刺激の臨床的外挿
15. TP関連用語のまとめ

成績の評価

試験100%

自己学習

講義で疑問が残った用語は、参考文献、web等で調べ、配布プリントに書き込む。

履修上の注意

声が聞き取れない、意味が分からない時は、私語でなく質問を。

テキスト

配布プリント

参考文献

「MIT認知科学大事典」(協立出版)中島秀幸 監訳

「医師は最善を尽くしているか」(みすず書房)アケル・ガワゲ

オフィスアワー

水曜 12:30-13:00

研究室

診療・研究棟3F 306研究室

授業用E-mail

kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	3A438011
講義名	経穴・臓象学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2405
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし

担当教員

川本正純

講義の目的

3年前期までに学習してきた東洋医学概論・経絡経穴概論を復習し、さらに臓腑の持つ性質とその働き（臓象）及び五行説に基づいた他臓腑との関わり、また経絡・経別・経筋・奇経の各論を学習する。

到達目標

学習した各事項をもとに、古典に記載された症候に対する経穴の選穴理由を弁証できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 臓象について (1)
2. 臓象について (2)
3. 臓象について (3)
4. 臓象と陰陽論・五行説 (1)
5. 臓象と陰陽論・五行説 (2)
6. 臓象と陰陽論・五行説 (3)
7. 是動・所生につて (1)
8. 是動・所生につて (2)
9. 経間関係と臨床応用例 (1)
10. 経間関係と臨床応用例 (2)
11. 常経の要穴の運用方法
12. 経筋・経別・奇経について
13. 奇経の運用方法
14. 素問【刺腰痛篇】の経穴について
15. 胃腸症状への配穴弁証

成績の評価

期末試験で評価する。

自己学習

経穴では、要穴・交会穴を憶え、臓腑の互いの相関について、東洋医学概論をもとに学習すること。

履修上の注意

東洋医学概論、経絡経穴概論の知識を十分に整理しておくこと。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

「東洋医学概論」 (医道の日本社) 教科書執筆小委員会

「経絡経穴概論」 (医道の日本社) 教科書執筆小委員会

研究室

診療・研究棟3F 302研究室

授業用E-mail

kawamoto@kansai.ac.jp

講義コード	3A439011
講義名	運動器の触察法
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2609
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田淵 香緒利	指定なし

担当教員

田淵 香緒利

講義の目的

運動器由来の疼痛への対処はその発生源の探知が必要不可欠である。疼痛の発生源を特定するには運動器の三次元的な位置関係の把握が必要となる。本講義では、重なり合う骨、筋、腱、靭帯の奥深くまで指を押し入れてそれらを触知する方法、直接的な触知が難しい筋の起始、停止部については骨指標を用いてこれを推定し、体表投影する方法について学び、実習する。

到達目標

運動器の体表投影図が描けるようになる。

授業計画表

授業計画

- 第1回 触察描画の基礎 膝部の骨構成と骨指標について
- 第2回 膝部及び股関節部の骨構成と体表投影図描画実習
- 第3回 大腿直筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第4回 縫工筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第5回 内側広筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第6回 外間広筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第7回 中間広筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第8回 第一回実技テスト
- 第9回 大腿二頭筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第10回 半腱様筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第11回 半膜様筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第12回 膝窩筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第13回 大内転筋の触知法と体表投影図描画実習
- 第14回 第二回実技テスト
- 第15回 復習

成績の評価

()90% 10%

実技テスト 体表投影図の描画、平常点にて評価
平常点は出席状況と授業への取り組む姿勢を評価する。

自己学習

実習範囲の解剖学、運動学を復習・整理する。

履修上の注意

1. 技術は、基本をとばして最初から「自己流」は巧くなれないばかりか事故も発生し易い。指示通りの施術を心掛けること。
2. 実習内容を反復練習してこそ技術は習得できる。練習時に実習内容を再生できるよう、メモ、ノートをとること
3. 私語は自分は勿論、他者の技術習得を妨害する。制止の指示に従わなければ、退室させることもある。
4. 実習し易い服装にすること。バッグ、飲食物の持ち込みは禁止

テキスト

プロメテウス解剖学－解剖学総論 運動器系

参考文献

1. 骨格筋の形と触察法
2. 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹
3. 触診機能解剖カラーアトラス 下

講義コード	3A440011
講義名	スポーツ鍼灸治療Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A3-2612
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 穰士	指定なし

担当教員

松浦 穰士

講義の目的

スポーツ選手、スポーツ愛好家の疲労の回復ならびにスポーツ障害・外傷の予防と治療、回復による競技パフォーマンスの向上を目的とした鍼灸治療の技術を習得します。
また、スポーツ現場で現在活躍する先生に来て頂き、特別講義をしていただく予定です。

到達目標

正確にスポーツ障害の評価を行えること、予防法、応急処置の方法などを一般のスポーツ選手に説明できることを目標とします。そして最終の目標は、その障害に対し鍼灸治療でいかに改善させるかを到達目標とします。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、鍼灸治療の基本
2. 足関節捻挫に対する鍼灸治療
3. 下腿内側（シンスプリント）に対する鍼灸治療
4. 下腿後面（アキレス腱炎）に対する鍼灸治療
5. 特別講義
6. 膝関節部障害に対する鍼灸治療
7. 大腿部の障害に対する鍼灸治療
8. 股関節・殿部の障害に対する鍼灸治療
9. 特別講義
10. 手関節障害に対する鍼灸治療
11. 肘関節障害に対する鍼灸治療
12. 肩関節の障害に対する鍼灸治療
13. 特別講義
14. 腰部障害に対する鍼灸治療
15. 頸部障害に対する鍼灸治療

成績の評価

筆記試験 80%・平常点 20%

自己学習

スポーツ障害を理解する上で必要な筋肉・骨・靭帯の解剖や、東洋医学的知識である経絡や経穴（特に要穴）なども予習・復習をしておいてください。

履修上の注意

実習時間は限られていますので、訓練する技術は、その時間内に習得するように心がけて下さい。指示以外の施術はしてはいけません。またお互いが被術者になりますので、実習部位への鍼灸治療が可能な服装を心掛けてください。

テキスト

「スポーツマッサージ」(KATA実技指導員著)

参考文献

「スポーツ東洋療法ハンドブック」(医道の日本社)

講義コード	3A539011
講義名	スポーツと栄養
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	専門基礎
科目ナンバリング	A3-2118
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 岡村 浩嗣	指定なし

担当教員

岡村 浩嗣

講義の目的

スポーツにおける食事・栄養摂取の重要性について理解し、競技特性の異なるアスリートの日常的な栄養ケアができるようにする。また、栄養欠陥による疾病の予防や様々なトレーニング状況に応じた栄養ケアができるようにする。さらに、サプリメントについて理解し、スポーツ栄養士や管理栄養士と連携した栄養ケアができるようにする。

到達目標

1.アスリートにおける栄養・食事摂取の意義を理解できるようになる。2.トレーニングプログラムや競技特性と関連づけた食事のあり方を理解し、日常的な栄養ケアができるようになる。3.栄養欠陥に基づく疾病の知識を学び、その対策を講じることができるようになる。4.合宿・遠征などの特殊環境下における栄養ケアができるようになる。5.サプリメントについて理解し、アスリートに対する管理ができるようになる。6.スポーツ栄養士や管理栄養士との連携ができるようになる。

授業計画表

授業計画

- 1.スポーツ栄養サポートとは
- 2.アスリートの身体組成
- 3.からだ作りとウエイトコントロール
- 4.日本食とスポーツ栄養
- 5.スポーツ栄養と炭水化物・脂質
- 6.スポーツ栄養とたんぱく質
- 7.スポーツ栄養とビタミン・ミネラル
- 8.トレーニングスケジュールと食事
- 9.競技特性と食事
- 10.コンディショニングと栄養摂取
- 11.水分補給・スポーツドリンクの科学
- 12.栄養欠陥に基づく疾病と対策

- 13.特殊環境下における栄養ケア
- 14.サプリメントの利用時の留意点
- 15.アスリートの栄養教育

成績の評価

レポート80%、平常点20%

自己学習

テキストを予習しておく

履修上の注意

スポーツをする人の栄養・食事について知りたいことや疑問に思うことなどをまとめておき、講義をとおして解決・確認するようにする。

テキスト

日本体育協会公認アスレティックトレーナーテキスト

参考文献

なし